

経営理念が確立・浸透したら、 後は社員に任せる



TOMAコンサルタントグループ
代表取締役 理事長
藤間秋男 ●とうまあきお

「明るく、楽しく、元気に、前向き」という言葉を経営理念に掲げている税理士事務所や会計事務所なんて、他に例がないかもしれません。税理士や会計士は帳面を作り、税金計算をする。暗くて元気がないというのが一般的なイメージでしょうか。ただ、わたしはそれとは対極的に仕事をし、お客様に受け入れられてきました。だから、いまから十三年前、経営理念を作るとき、このフレーズはすんなり決まりました。

*

一九九二年のこと、それまで順調だった弊社の成長が停滞し始めました。一生懸命やっているのに、採用しても社員が辞めていくのです。副代表と部長と、次長が辞めた年もありました。

「明るく、楽しく、元気に、前向き」という経営理念を掲げる前に、社員が明るく元気にならない原因を自らが作っていたのです。

自分一人ではその器以上に会社は伸びない。それを超えるには社員の衆知を集め、信じて任せていくしかありません。

わたしは「社員を信じて任せる」と宣言し、自分を変えました。社業は再び伸び始め、人数も増えていきました。任せることで、自分の器以上の会社になったといえるでしょう。

*

いま、中小企業の七割は赤字です。言い換えれば、七割の企業は税金を納めていません。この責任は会計事務所にあると思っています。

税理士法的一条にも適正な納税をさせるという項目があります。毎月経営の試算表を作成しているのですから、赤字ならば、「社長、もっといい商品を作りましょう。いいお客さんを作しましょうよ」と激励しなければなりません。

停滞期が十年も続くのです。その時、松下幸之助さんの挿話がある方からお聞きする機会がありました。経営が成功する三原則という話でした。

- 一、経営理念の確立と浸透（五〇％）
 - 二、社員がイキイキできる環境づくり（三〇％）
 - 三、戦略と戦術は社員を信じ任せる（二〇％）
- ハツとしました。それまで自分は、お客様のことを思い、一生懸命でした。だから、社員にこれやれ、あれやれと指示し、すべて自分で決めていたのです。社員からすれば、何でも口を出され、やろうとしてもすぐひっくり返される。わたしは独裁者でした。社員の気持ちを考えていませんでした。

どうすれば、毎月黒字になるのか、社員がわくわくする環境になるのか、常に一緒に考え続けるのが、わたしたちの責任だと思います。

利益が出ようが出まいが、税金計算だけをし、顧問先企業と面談もせず、メールのやり取りだけなんていう事務所もあるようです。

わたしたちは、顧問先としっかり対面し、試算表を説明し、相談に乗り、アドバイスまでおくるという姿勢を大事にしています。

弊社は、百二十五年前に司法書士事務所として開業しました。現在では、公認会計士、税理士、社会保険労務士といった百八十名の専門家が集う総合コンサルティング会社です。目標は顧問先を百年続く企業に育て上げ、千年続くコンサルティングファームになることです。

だから、決算処理や試算表の提出で終わることなく、経営課題の解決策をこれでもかと、おせっかいなほど提案します。その意味でも他に例のないコンサルティング集団だと思えます。